

第45号

۱۳۹۳

発行人
四東高校伊予野丘
同窓会

〒873-0502
大分県国東市国東町田深469
TEL 0978-72-0604
FAX 0978-72-0604
(事務局長 西田範男)

古い歴史と伝統を継承し発展に向けて

私たちの伊予野丘同窓会はご存知のように、一昨年母校であります旧制国東中学校と国東高等女学校が開校して100周年を迎える祝いをいたしました。これからは、また、次の100年に向けて古い歴史と伝統を誇りますこの同窓会が、末永く存続出来ますよういろいろ取り組んで行かなければならぬと思います。

まず、その第一としまして、昨年の通常総会で承認を頂きました、国東高校との統合であります。わが同窓会の将来を担ってくれる体制を今から整えなければなりません。時間はかかると思いますが、根気よく準備を進めてまいります。

第二としまして、我々の母校は平成20年に閉校になりましたが、それまでに卒業された方は、約1,600名です。近年は、高齢化が進み、国東地区で分かっています。そこで、毎年、約60名の方が亡くなっていますが、このような状況の中で、比較的若い人で、まだこの会に出席されたことのない人がたくさんおられます。この若い人たちが同窓会に出席してくれますよう参加者の掘り起こしをすることであります。本日ご出席の皆様には新たに一人でも結構です、まだ参加したことのない人に声掛けをお願いしたいと思います。

同窓会は同窓会の皆さんのが楽し



令和7年度通常総会にあたり 伊予野丘同窓会会長 宮本季生

〔S33年卒高10回生〕



本部同窓会9名 力分支部同窓会
29名、別府支部同窓会19名、合計
277名でした。

各地とも同窓会にはそれぞれの
地域の特徴があり、それぞれに樂
しく同窓の時間を過ごしていくま
す。私ども執行部はこの楽しい集
いと語らいの場を提供することが
務めであります。皆様に出席して
良かつたと喜んでもらえますよう
努力してまいります。

皆様には、これまでと変わりま
せぬご支援とご協力をお願ひ致し
ます。

決算書は西田節男事務局長から、監査報告は國廣秀光監事から報告がありました。また、本年度の予算案についても西田事務局長から提案がありました。いずれも、承認されました。

総会での議論は主に次のことが

来賓のごあいさつは、2人の方から頂きました。①松井督治国東市長、②笠木敏行国東高校校長の方々でした。（同上）
議長には、野田忠治氏（安岐支部長）が選出され、議事進行が行われました。

国東高校伊予野丘同窓会総会が5月24日（土）12時30分からホテルベイグランド国東で、約90名が出席して開催されました。

総会では、宮本季生会長が主催者を代表してあいさつを行いました。

令和7年度 国東高校伊予野丘同窓会総会



来賓の方々

一つは、国東高校伊予野丘同窓会と現在の国東高校同窓会との統合についてでした。宮本会長から冒頭のあいさつで提起された「お互いの準備が整った時点で統合する。現国東高校の同意が整い次第統合の準備を進める」ということが承認されました。

二つ目は、未返還奨学金の件でした。同窓会からの奨学金で、償還期限過ぎの未返還分について、本人と保証人全員に督促状を送付しましたが、連絡をとれない不明者が多いので、損金処理することを諮り、承認されました。

三つめは、役員改選期にあたり役員改選案について諮り、本会報最終ページに記載のとおり承認されました。

来賓あいさつ



国東市長
松井 督治
(高31回 S54年卒)

本日、国東高等学校伊予野丘同窓会の通常総会が、多くの皆様のご出席のもと、盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。

また、皆様方におかれましては、平素より、市政の推進に対し、温かいご支援、ご協力をいただきしておりますことに、改めて感謝申し上げます。

さて、皆様ご存じのとおり、国東市をはじめ、地方の自治体の大きな課題は少子化、そして人口減少です。

以前は、市内に4校あつた高校も、生徒数の減少による統廃合で、現在では国東高校1校のみとなっています。このようない状況において、市内で唯一の高校である国東高校は、地域の将来を担う人材育成の場として、大変重要な存在であり、市としましても、公営進学塾「夢道塾」を開設して、国東高校生の夢の実現を応援しているところです。

現在、国東高校には、多くの学科、コースが開設され、皆さんの多様な進路の希望を叶えられる高校となっています。昨年度からは「日本で最も宇宙に近い高校」として『スペースコース』

が新設され、東京理科大学と連携して行われている「宇宙航空専門人材育成プログラム」では、専門人材育成について考える「宇宙商用利用の最先端で活躍している企業と一緒に、将来の宇宙ビジネスについて考える「スペースビジネス・ワークショッピング」、パラボリックフライト実験を活用した「ミッションベースドラーニング」を主軸に、全4回の合宿形式の人材育成プログ

ラムが実施されています。特に、今年の2月に行われた3回目の合宿では、国東高校の生徒が、パラボリックフライトで、微重力空間の中で実験をしている様子が全国ニュースで報道されました。おそらく、県内はもちろん、国内でも、微小重力体験をして、飛行機の中でフワフワ浮かんだ高校生は、ほとんどいないのでないかと思いま

ます。近い将来、園芸ビジネス科の卒業生が、ビッグな梨園で活躍してほしいと思つ

ています。また、部活動においても、昨年度は、柔道部が大分県高校総体の団体戦において、8年ぶりのアベック優勝を果たすなど、生徒の皆さんのが、日々鍛錬を積み重ね、国東高校の名声を高めてくれていることも、国東高校の勢いを感じる出来事です。

しかししながら、急速に進む少子化の時代において、国東高校が存続・発展するためには、更なる魅力の向上が必要であると思っています。市としましても、今後も、県教育委員会と連携しながら、国東高校が市内の中学生はもとより、全国の中学生からも選ばれる魅力的な高校となるよう、引き続き支援を行うとともに、国東高校を卒業した生徒が、国東に住んで働きたいと思ってくれるまち、若い世代が将来に希望を持てるまちにしていきたいと考えております。



国東高校校長
笠木 敏行

お願いいたします。私自身、国東高校の31回生であります。母校国東高校が、これまで築いて来た輝かしい伝統の上に、新たな素晴らしい未来に向けて、歩んで行くことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



国東市長
松井 督治
(高31回 S54年卒)

続可能な社会の創り手となる人材を育成したいと考えています。その取り組みの一つとして、文科省の研究委託費の採択を受け、大分県、東京理科大学と協働して宇宙ビジネス人材の育成を進めています。この中では、高校生と大学生がワークショッピングでミッション解決のためアイディアを出し、実現するための実験計画・実験装置を開発し、微小重力環境下で実験を行い、実験結果を踏まえ宇宙志向ビジネスへの展開について兼松商事や日本航空などを交えて議論するなど多様なプログラムを開発しています。今後も引き続き、学校として魅力づくりに励んでいきたいと考えています。

同窓会の統合に向けては、意形成に向けて必要な協議、検討を進め、今年度中には方向性を決定したいと考えております。今後も、充実した伝統を未来に繋いでいくよう、伊予野丘同窓会の皆様方にはなお一層のご支援ご協力を願いいたします。

同窓会の現状についてお話をさせていただきます。入試の充足率については、ここ数年80%で推移していましたが今春は65%まで落ち込んでいます。国東市内外の中学生に選ばれる学年になるべく、本年4月から普通科に「SPACEコース」を開設し、2年生18名により特長的な学びがスタートしました。

また、今春入試では、北海道、東京都、神奈川県、岐阜県、兵庫県、福岡県など全国から8名が入学してきました。SPACEコースでは文理を問わない探究的な学びを通じて予測不能な時代でも多様な人材と協働し、持



功労者表彰

永年にわたり同窓会を牽引・支援されて
こられました方3名に宮本会長から感謝状と
記念品を贈呈しました。



橋 永 桂 子 氏 (前副会長)
清 原 洋 一 氏 (前杵築支部長)
田 口 正 高 氏 (前大分支部長)



伊予野丘同窓会次第

1. 総 会 12:30 ~ 13:30
 - (1) 物故者追悼
 - (2) 同窓会長あいさつ
 - (3) 来賓あいさつ・来賓紹介
 - (4) 議事
2. 講 演 13:30 ~ 14:40
「人生下りが面白い」
～100年生きるということ～
フリーアナウンサー 松本久美子
3. 懇親会 15:00 ~ 17:00
 - (1) 乾杯
 - (2) 宴会
 - (3) 万歳三唱
 - (4) 閉会のことば

懇親会

懇親会が、同ホテルで15時から開催されました。
約80名の参加でした。

乾杯！



乾杯が、関西同窓会長董嶋時信
さんの音頭で発せられました。

「今後の同窓会、国東高校の発
展を祈って乾杯！」



乾杯後は、それぞれが同窓会への思いや高校時代の思い出、
同郷のよしみでの話などで盛り上がってきました。



締めが、福岡同窓会長の池本孝さん
の万歳三唱で行われ、懇親会は閉宴
しました。





記念 講演

「人生下りが面白い」 ～100年生きるということ～

フリーアナウンサー 松本 久美子

人生50歳くらいまで、えっちらこっちら登っていくけれども、50歳を過ぎてからの下りが面白い。

高齢化社会と言われていますが、平均寿命と健康寿命は違う。健康寿命をのばしたい。

人生登山と言われているものがある。人生90年として、区切りがある。35歳～55歳がてっぺん。登る時は1点だけ見ている。mustである。下る時はいろんなものが見える。wantである。70歳頃、好きなこと、趣味、生涯学習をしたいなどと思ってくる。下りは、けっこうおもしろい。

コミュニケーションの領域は2つある。一つは、言語コミュニケーション。意識的な話・会話で、成人男性で1日平均7,000語、女性で20,000語発すると言われている。二つ目は、非言語コミュニケーションで無意識・間接的なものである。表情、しぐさ、態度、声の調子など。赤ちゃんが泣いている時、背中をトントントンと軽く叩いてあげると泣き止む時がある。人間は、非言語コミュニケーションが先に発達すると言われている。

言葉は、心の食材。「味わう」「噛みしめる」「飲み込む」「吐き出す」。これで良いかと考え(吟味)再構築して(味見)聴いて頂く(賞味)。

私たちは生きていく上で、Must「～ねばならない」と思うものがある。

時間、ルール、上司、部下、会社、親、子どもなど。この差が大きいと「あんしゃ、おかしいんじゃないか」と思われる。

自分の価値観と相手の価値観は違う。しかし、絶対に許容できないことと同じではないが許容範囲のことがある。同じじゃないけど許容範囲、これができるからやっていける。

人間には、怒りの感情がある。すごく頭にきたこと、まあまあ腹がたったこと、軽くいらっしゃったことなどがある。脳には、①偏桃体(大脳辺縁系)=本能・感情と②前頭前野=理性・知性がある。怒ることはいろいろある。しかし60歳を過ぎてから、もう許そう。怒り(いかり)から恕り(おもいやり)に変えることができれば、人生幅がでてくる。

後半は、自分の祖母のことについて話します。

祖母は、100歳まで生きた。24歳で結婚したが、夫が戦死して、27歳で一人になった。一人子どもがいた。それが、私の母だった。母は、52歳の時に夫が交通事故死。女3人で暮らすようになった。

祖母は、94歳の時に転倒。手術が必要ったが、したがらない。「死んだほうがいい。」と言う。何とか、説得して手術。手術後は、リハビリをしたがらない。ところが、「リハビリをする。」と言い出した。先生が、男前やったから。

そういうして、何とか100歳まで生きた。死ぬ前、言葉は、出なくなつたが、ありがとうの気持ちがしぐさや態度に出ていた。にっこり笑ってくれる。唯一の機能でありがとうの気持ちを伝えてくれた。100年生きて、ありがとうの気持ちを伝えてくれた気がする。

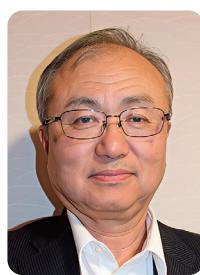
私は、それで「ありがとう」の気持ちを持って仕事や講演をするようになった。

人生は、大きな一呼吸。この大きな一呼吸が50年の人もいれば、70年の人もいれば、100年の人もいる。皆さんの残した言葉は大切な人に引き継がれていく。人間は暖かい言葉で生きていく。ありがとうの気持ちを持って生きていきましょう。



2004年に国東半島中心部の故郷に戻り農林業(水田稲作と原木乾シイタケ生産)を自身で行いながら、地域の課題を少しでも解決するための様々な取り組みに参加し、早20年が過ぎました。そのような中、令和7年5月24日開催の伊予野丘同窓会総会において副会長に選任されました。現在の大分県立国東高等学校のホームページ(<https://kou.oita-ed.jp/kunisaki>)には、「宇宙視点で地球課題に向き合い、新たな価値を創造する人材を育成する学校 国東高校」は、平成20年に『国東農工高校』と

大分県立国東高等学校を卒業して、あつという間に46年もの歳月が流れました。東京大学理系II類(農学部)卒業。東京大学大学院博士課程中退後、昭和60年(1985年)から、平成15年(2003年)までは、農学基礎研究者(植物栄養・肥料学)II植物にどんな肥料を与えるかなどの研究)として、同農学部で過ごしました。



伊予野丘同窓会
副会長
林 浩昭
(高31回 S54年卒)

国東高校伊予野丘同窓会
副会長に選出され

頑張つちよで!

支部・同窓会員紹介

『国東高校』『双国高校』を発展的に統合し、2025年度で18年目を迎える県立高校です。」と書かれていました。その県立高等学校統廃合の議論が行われていた当時、私は、大分県教育委員を務めており、少子化が急速に進行している国東市に県立の高等学校を存続させるために何ができるのかに關して多くの議論を行い、国東高校と国東農工高校、双国高校が統合して「国東高校」の名で伊予野丘より現在の場所に移る苦渋の選択に至り、合併賛成の議決を行いました。

今現在、少子化はさらに進行していると聞きました。そのためにはがでけるのか、伊予野丘同窓会の中で多くの先輩・同級生・後輩の皆様と杯を交えながら議論していくならと思っています。これまで同窓会にはあまり参加すらしてこなかつた会員でしたが、何卒ご指導よろしくお願い申し上げます。

杵築支部長になつて



新杵築支部長
溝部 矩子
(高17回 S40年卒)

このたび令和7年5月に開催された国東高校伊予野丘同窓会通常総会において、前任の清原洋一

支

部長の後任として杵築支部長を拝命しました。杵築市南台東に在住の溝部(旧姓 芦刈)矩子です。私は国東町今在家の出身で、両親は戦後「芦刈衣料品店」を営み、約80年間続けてまいりました。弟・

芦刈耕一郎(高20回卒)は杵築市南台東に在住、妹・芦刈和子(高23回卒)はニューヨークに在住しております。

私は、杵築市北浜にある創業71年を迎えた「城下町会館」で葬儀に関する仕事に携わっております。自身も入社から55年、さまざまの変化や課題に直面してきました。その都度、明確な判断と行動が求められましたが、大病もなく今日まで続けられたことを神様からのご加護と感謝しております。

杵築支部では、これまで一度も総会に参加されていない会員の方々が多くいらっしゃいます。今後、どのように声かけをしていくべきか、ご相談させていただければと思います。

私は、旧国東高校の校歌の素晴らしさを改めて実感しております。す。78歳を迎えた今、心に深く刻まれております。

長きにわたりご尽力をいたいた清原洋一前支部長にこの場を借りて心よりお礼申し上げます。私自身、仕事の多忙さと活動の両立に不安はありますが、できる限りの務めを果たしてまいります。会長はじめ役員・各支部長の皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、国東高校のさらなるご発展を心より祈念いたします。

私は、旧国東高校の校歌の素晴らしさを改めて実感しております。す。78歳を迎えた今、心に深く刻まれております。

私は、旧国東高校の校歌の素晴らしさを改めて実感しております。す。78歳を迎えた今、心に深く刻まれております。



大分大学名誉教授
佐藤 誠治
(高20回 S43年卒)

景観資源に恵まれているかを感じることが多々あるのではないかでしょうか。私も故郷を離れて60年近くになりますが、市からの依頼で改めて国東の景観に思いを致したところです。計画策定では担当者である国東高校卒業生の方々には無理を言いましたが、誠実に対応してくださいました。その後景観計画に記載した施設事業の進行管理にもタッチすることになり、市景観審議会長を務め、旭日小学校や富来小学校では施設するなど、郷土の後輩たちとも楽しい交流を経験したところです。現在その延長として高齢者の皆さん(私と同じ年代以上)に公民館での講演を通じて国東の景観のことを一緒に考えることとしています。本年7月には旭日地区、9月には国東地区で講演する予定です。私は国東町上国崎見地の出身ですが、故郷を想う時に必ず脳裏に浮かぶのは「国東市景観計画」の表紙を飾つた生家(今は屋敷地しか残つていません)の裏山の小松神社から見える「あらたに川」の対岸の御旅所の桜の風景なのです。

私は大分市に居住して

います。国東は「ふるさとは遠きにありて思うも

」の感を強くしているこの頃です。卒業生、そして国東の皆様にはご健勝でお過ごしくださるよう心より祈念申し上げます。

(令和7年6月20日 盛夏)



インターハイ出場者を激励!

国東高校伊予野丘同窓会(宮本季生会長)は、令和7年7月9日(水)午後1時から国東高校校長室で、大分県高校総合体育大会で優勝しインターハイ(全国高校総体)に出場する選手の激励会を行い、激励金を選手代表に渡しました。

インターハイに出場するのは、【柔道部】男子個人60kg級河野将大(3年)、【陸上部】男子ハンマー投げ濱松心(3年)、女子ハンマー投げ若山夏希(3年)、【ウェイトリフティング部】女子45kg級宮園こはく(2年)、男子67kg級竹田津心希(3年)、81kg級清原大和(3年)、89kg級後藤朔人(3年)、102kg級石井摩裟斗(3年)の8人でした。

国東高校の笠木敏行校長から、選手への励ましと伊予野丘同窓会への感謝のことばがありました。続いて、それぞれの部の監督から選手紹介があり、各部の選手が、インターハイ出場への意気込みを述べました。「激励ありがとうございます。ベストを尽くします。」「悔いの残らないように全力で頑張ります。」「2回目のインターハイなので、一つ一つに集中してやりたい。」などと力強く述べました。

最後に、宮本季生伊予野丘同窓会会長から、選手への激励のことばあり、その後激励金が手渡されました。



インターハイの状況・結果

【陸上部】7月25日に広島市で、
【柔道部】8月14日に岡山市で行
われましたが、いずれも入賞な
りませんでした。
【ウェイトリフティング部】
8月8日～11日に鳥取県米子市
で行われました。宮園こはく
さんが4位、竹田津心希さんが
6位に入賞しました。

編後記

□今年度、国東高校普通科に「SPACEコース」が開設された。全国から募集し、県外からの8人を含めて18人でスタートしたという。定員に満たず、厳しい船出であるが今後を期待したい。□少子化の中、大分県では地方の高校は定員に満たず大分市集中の傾向である。大分県高校入学試験が全県フリーとなってから地方の高校にとっては大きなハンディである。□国東高校も定員に満たず、これまで以上の厳しさである。□魅力ある国東高校の創出や特色ある学科、進学校として新入生をひきつける普通科の育成こそ同窓生の願い。□定数を確保し持続可能で発展的な国東高校となるよう学校、同窓会、地域、国東市が一体となって取り組んでいけば道は開けるのではないか。

①伊予野丘同窓会と現国東高校同窓会の統合については、お互いに準備ができ次第統合の準備委員会を持つて話を進める。
②奨学金未返還処理について
は、連絡を取れない不明者が多く、このまま返還請求をするのは困難なので、損金処理をする。総会にて報告する。

「伊予野丘同窓会と現在の国東高校同窓会の統合に向けて、国東高校に対して申し入れを行っている。お互いの準備ができ次第、統合のための準備委員会を持ち進めていきたい。」といふあいさつをされ、それを受けて審議されました。主な案件は次のとおり。



令和7年度 常任理事会

③執行部より、同窓会の会費に00円お願いしたいと提案。理
事会では、集め方や同窓会統合の話もあるので、年会費300
0円の徴収については、結論を
持ち越し検討課題とすることに
なった。

令和8年度総会は5月23日(土)開催。御出席お願いします。

東京同窓会長	副会長	同窓会長
関西同窓会長		宮本 一丸
福岡同窓会長		元永 久子
大分支部長		小深田 矢野
別府支部長		安行 浩昭
杵築支部長		季生 俊介
安岐支部長		ナオ 亞紀
武藏支部長		正敏 真也
旭日支部長		秀光 俊介
豊崎支部長		精一 久子
川南支部長		西田 古河
上国崎支部長		宮園 帯刀
川北支部長		廣河 小深田
富来支部長		廣 岩谷
来浦支部長		園 田中
国見支部長		廣 田中
姫島支部長		廣 田中
須賀		廣 田中
藤原		廣 田中
一井		廣 田中
宮永		廣 田中
井村		廣 田中
竹田		廣 田中
鶴田		廣 田中
佐加良		廣 田中
秋田		廣 田中
野田		廣 田中
溝部		廣 田中
見		廣 田中
本串		廣 田中
池司		廣 田中
萱國		廣 田中
嶋廣		廣 田中
嶋國		廣 田中
昭彦		廣 田中
時信		廣 田中
浩三		廣 田中
義明		廣 田中
矩子		廣 田中
忠治		廣 田中
善隆		廣 田中
泰義		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
昭彦		廣 田中
時信		廣 田中
浩三		廣 田中
義明		廣 田中
矩子		廣 田中
忠治		廣 田中
善隆		廣 田中
泰義		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		廣 田中
公子		廣 田中
雅章		廣 田中
祥喜		廣 田中
一郎		廣 田中
敏郎		廣 田中
正人		廣 田中
和仁		廣 田中
義幸		